

講義名	対1)経済史			授業形態	
担当教員	都築 晶	開講期・曜日・時限	前期 水曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

この授業では、およそ18世紀から現代までの世界経済の大きな流れを押さえながら、工業化と経済成長の内容と意義について考える。その際には、以下の点に留意する。すなわち、まずイギリスで産業革命が起こり、経済成長を実現したこと、その工業化の波が日本をはじめとする各地に広がっていったこと、各地で工業化の進展過程とその帰結については相違があり、華々しい成長の背後では多くの矛盾や問題が生じていたことである。

到達目標

この授業では、履修した学生が、「知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材」となってもらえるよう授業を構成していきたい。
特に
・収集した個々の情報を多角的に分析し、現状を正確に把握することができる情報分析力
・さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた進路や段取りを明らかにした上で、具体化することができる構想力を身につけてもらいたい。
歴史的な事実を多数紹介するので、「知識」は十分に得られると考えられる。しかし、身の回りに興味を持ち、学んだことがいかに社会に出た後も必ず役に立ち学生皆さんの助けになると考えられる。

提出課題

基本的に試験もしくは期末のレポートで評価するが、場合によっては中間レポートを課す場合がある。その場合は授業中に案内する。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

中間レポートを課した場合、回収後に講評を附属する予定である。

評価の基準

期末試験もしくは期末レポート100%で評価する。
中間レポートを課した場合期末試験もしくはレポート80%、中間レポート20%程度で評価する予定である。
学期の途中でオンラインとなるなど、当初の予定通りとはいかない場合、別途案内を出す。

履修にあたっての注意・助言他

授業中の私語、飲食厳禁。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

授業ごとに資料をネットにアップロードする予定。
(月曜のお昼頃にはアップする予定)
受講に際して、各自ダウンロードもしくは印刷するように。
教科書は指定しないが、参考文献は適宜授業内で紹介する。

授業計画

- 第1回：工業化とは何か
- 第2回：工業化の発展段階
- 第3回：工業化の類型
- 第4回：工業化の担い手（1）：企業
- 第5回：工業化の担い手（2）：企業家
- 第6回：企業家の類型
- 第7回：産業革命の起源
- 第8回：世界資本主義の形成（1）：綿工業製品
- 第9回：世界資本主義の形成（2）：鉄工業製品
- 第10回：世界資本主義の形成（3）：資本輸出
- 第11回：生活水準の変化
- 第12回：労働問題の発生
- 第13回：環境問題の発生
- 第14回：地域格差の問題
- 第15回：現代の諸問題を考える

一時的に通学困難になった場合は対面授業中での対応する。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

日々新聞・ニュースなどを見て、今起こっている問題に興味を持つこと。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

・知識を知恵に転換することができる、論理的思考力を持った人材
歴史（知識）を知っているというだけでなく、それを現在や今後にいかに生かせる人材になってもらう事を期待している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

対面授業の中で対応する